



## 巻頭言 「 生成 AI と課題研究への対応について 」

東京理科大学理窓教育会会長 富岡 康夫 (48 理・化)

OpenAI 社が 2022 年の 11 月頃から公開した ChatGPT (Chat Generative Pre-trained Transformer) について、これからの社会及び教育に様々に影響があるように報道されています。6 月 10 日に東京都高等学校情報教育研究会の都立立川高等学校での総会の折、「AI とこれからの教育～AI のパラメータがシナプスの数と並んだ衝撃」と題した Microsoft Innovative Educator Fellows 2022-23 の安藤昇様が、ChatGPT (Chat Generative Pre-trained Transformer) についての講演をされ、その体験と研究協議に参加しました。用いる 1000 億のパラメータがいわゆる脳のシナプスを超えてから、文章の完成度が非常に高く、探究活動等の論文作成に大きく寄与することが分かり、私自身、非常に有効なツールとして驚いた次第です。そこで東京都教育委員会では急遽夏休みの宿題等に利用しないことを学校に求め、さらに 7 月 4 日に文部科学省初等中等教育局は、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」ver1.0 を発表しました。その一部を抜粋します。① 課題研究等の過程で、自らが作成したレポートの素案に足りない観点などを補充するために生成 AI を活用させることも考えられる。その際、情報の真偽を確かめること（いわゆるファクトチェック）を求めるとともに、最終的な成果物については、AI とのやりとりの過程を参考資料として添付させることや、引用・参考文献などを明示させることも一案である。② 自らの作った文章を基に生成 AI に修正させたものを「たたき台」として、何度も自分で推敲し、より良い自分らしい文章として整えた過程・結果をワープロソフトの校閲機能を使って提出させることも考えられる。

※ AI を用いた際には、生成 AI ツールの名

称、入力した指示文（プロンプト）や応答、日付などを明記させることが考えられる。以上ですが、今後の教育や課題研究の指導では正誤を含めて大きな課題となると予想されます。また、マイクロソフト社は急遽、『Microsoft 365 Copilot (コパイロット)』を発表し、今後の生成 AI への対応を始めました。

さて課題研究の成果として、令和 5 年度の SSH 生徒研究発表会が、8 月 9、10 日に全国指定校等 228 校が参加し、神戸国際展示場で開催されました。生徒同士の質疑応答が盛んで、教師の指導では得られない主体性が育っています。今回の文部科学大臣奨励賞は昨年に引き続き、同じ横浜市立サイエンスフロンティア高校でした。「水に吸着することで撥水するオオサンショウモの不思議な仕組み」でした。オオサンショウモの葉の表面にある特殊な形の毛が水をせき止め空気を含むことを発見した点や生物模倣技術（バイオミクリー）につなげたいと述べています。

本学主催の坊っちゃん科学賞も今年度応募件数が 200 件を超え、11 月 12 日に実開催を予定しています。生成 AI のコメントの明記を研究論文提出校に急遽お願いしました。

理窓教育会の支援は益々重要性を増しています。秋山仁審査委員長をはじめ大学関係者のご支援に感謝します。さらに、教育会若手教員の連携も順調に始まり、これを契機にお知り合いの同窓生に広げ、本会の発展にお力を下さるよう切にお願い申し上げます。

(文華女子高等学校名誉校長)

## 第1号議案 令和4年度 会務報告

1. **東京理科大学理窓教育会総会** 令和4年度も、「書面総会」の形式で実施した。
  - ① 令和4年度の会務報告及び会計報告。② 令和5年度の活動計画及び予算案。
  - ③ 理窓教育会理事会などは今回もコロナ禍のためZoom配信理事会で実施した。
2. **組織の充実、強化に関して**（各支部の努力・工夫で徐々に活動が始まりました）
  - ① 各支部の活動状況（各支部からの報告事項から）（**会報61号からのまとめ**）
    - ・青森支部総会（阿保民博支部長から、今年も8月に「おもしろサイエンス」を計画とのこと）
    - ・岩手支部総会（佐藤尚支部長から、コロナ禍で懇談会ができません。工夫して取り組みたい）
    - ・秋田支部総会（長岐康彦支部長から、12月「総会報告」4月に「大学情報」支部報を年2回発行）
    - ・群馬支部総会（関根正弘支部長から、11月26日（土）群馬支部総会と共に開催。参加者20名）
    - ・埼玉支部総会（蛭間督支部長から、7月3日（日）ハイフレックス形式で実施。総会后埼玉支部総会に参加した。もう少し若い人の参加を働きかけたい）
    - ・東京支部総会（富岡康夫支部長から、5月オンライン総会を実施した。9月に管理職選考面接研修会を例年通り実行した。参加者として、教育会のメンバー、選考試験受験者が多数参加した）
    - ・千葉支部総会（藤崎俊浩支部長から、3年ぶりに対面で実施。3月に教職員部会報を発行できた）
    - ・神奈川支部総会（田中均支部長から、総会実施できなかった。若い人に参加してもらおう工夫）
    - ・山梨支部総会（橘田多喜夫支部長から、コロナ禍で中止したが理窓会支部と合同で開催したい）
    - ・静岡支部総会（樋口和男支部長から、「創域理工学部への期待」というご所見をいただいた）
    - ・富山支部総会（近藤智久支部長から、8月6日理窓会で南極観測隊員の講演会ができてよかった）
    - ・福井支部総会（油谷泉支部長から、理窓会支部とも連携し、同窓の親睦・研修を充実させたい）
    - ・岡山支部総会（三浦康男支部長から、役員の高齢化が課題。若い人たちの参加に取り組みたい）
    - ・広島支部総会（板倉宏治支部長から、10月2日理窓会支部総会と合同で3年ぶりに開催できた）
    - ・鳥取支部総会（齋尾宏伸支部長から、理窓会支部総会も開催されていないのが現状）
    - ・徳島支部総会（濱本寛信支部長から、総会開催できない。アフターコロナを期して頑張りたい）
    - ・佐賀支部総会（森永和雄支部長から、会員の多くが高齢化とのことで総会の開催を断念した。但し、役員間の連絡をメールや電話等で取り組んだ。他県に学びZoom会議など活用したい）
  - ② 会報発行（今年度もコロナ禍を考慮し、少人数で集まり発送作業を行った）
    - ・第60号 令和4年10月 発行
    - ・第61号 令和5年 4月 発行
3. **大学との新たな連携事業**
  - ① 大学との高大連携への協力  
令和4年度より大学側より依頼を受け、高大連携への具体的な活動がスタートした。窓口は、科学フォーラム編集委員長：渡辺一之前副学長並びに父母支援課：加藤良課長が担当、今後の教育会との連携が考えられる。渡辺一之氏からは教育会会報60号に寄稿文が掲載されている。
  - ② 大学「キャリア教育」事業は、コロナ禍のため今年度も計画されませんでした。
  - ③ 第13回「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」分野別審査会への協力及びオンライン発表会への支援。今回の特色は、分野別審査員として現職教員を含む47名の協力体制で臨んだ。
4. **その他の活動** 「若手教員ネットワークの会」について
  - ① ネットワークの会幹事13名を中心に、6年ぶりに勤務校の再調査及び動向などについて調査を実施し高大連携への活動に寄与した。
  - ② 令和5年3月26日（日）午後6時～開始：第4回目のZoom幹事会を開催した。若手の会幹事参加者10名。教育会から11名。合計21名。今年度理科大学ホームカミングデー「同窓出合いの広場」を活用し、第3回目となる懇談会開催を確認してZoom会を終了した。

第2号議案 令和4年度 会計報告(案)  
令和 4年度 会計

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	71,242	71,242	0
納入会費	300,000	215,356	-84,644
理窓会正会員協力金	10,000	8,400	-1,600
地区別支部長会計より補填	0	0	0
合 計	381,242	294,998	-86,244

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
交通費	50,000	18,000	32,000
慶弔費	10,000	0	10,000
会議費	0	0	0
支部長会積立金	0	0	0
事務費	9,000	11,897	-2,897
会報2回の印刷費, 封筒代	150,000	139,810	10,190
全国会員への会報等の郵送費	110,000	80,976	29,024
HPページ更新,オンライン活用等	20,000	0	20,000
会長交流費	0	0	0
予備費	32,242	10,000	22,242
小 計	381,242	260,683	120,559
次年度繰越金		34,315	
合 計	381,242	294,998	

※ 納入会費 1,500円×153口-口座徴収料金 14,144 円 =215,356 円

[ 口座徴収料金内訳 152円×61人+203円×24人]

※ 予備費の支出は原稿依頼謝礼図書カード5名分(2,000×5)

※ 令和5年度は地区別支部長会費会計より補填なし

※ 令和5年度予算案 納入会費(1,500 円×200 口=300,000 円)

第4号議案 令和5年度 予算(案)  
令和 5年度 予算

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	34,315
納入会費	300,000
理窓会正会員協力金	10,000
地区別支部長会計より補填	0
合 計	344,315

[支出の部]

科 目	予 算
交通費	40,000
慶弔費	10,000
会議費	0
支部長会積立金	0
事務費	10,000
会報印刷費等	145,000
全国会員への郵送費等	105,000
HPページ更新,オンライン活用等	20,000
会長交流費	0
予備費	14,315
合 計	344,315

※地区別支部長会費会計  
令和4年度 会計

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和4年度会計報告及び令和5年度予算(案)  
令和5年度 予算

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	772,519	772,519	0
本年度会計より	0	0	0
受取利子	6	6	0
合 計	772,525	772,525	0

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
地区別支部長会費	250,000	0	250,000
令和4年度教育会会費への補填	0	0	0
予備費	522,525	0	522,525
小 計	772,525	0	772,525
次年度繰越金		772,525	
合 計	772,525	772,525	

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	772,525
本年度会計より	0
受取利子	6
合 計	772,531

[支出の部]

科 目	予 算
地区別支部長会費	250,000
令和5年度教育会会費への補填	0
予備費	522,531
合 計	772,531

会 計 : (各担当理事) 齋藤常男 竹村精治 臼田三知永 古川知己 澁谷重雄  
監査の結果, 正確・適正であることを認めます。

令和 5 年 5 月 12 日

監 査 細川 秀夫 ㊟ ・ 田村 清志 ㊟

### 第 3 号議案 令和 5 年度 活動計画（案）

#### 1. 東京理科大学理窓教育会総会

令和 5 年度理窓教育会総会は、「書面総会」方式とする。例年と同様に各支部長に議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらう。それを本部で集計し、会報第 62 号に詳細を掲載して、書面で承認をしてもらうこととする。

令和 5 年度の目標として：オンラインを活用し、理窓教育会の充実と活性化を図るため、具体的にメールなどでつながれる支部と Zoom 会の開催に着手する。

#### 2. 各支部総会

各支部で実施する（Zoom 会を用いる会議の開催を計画する）。実施状況は会報に掲載する。

#### 3. 地区別支部長会

地区別支部長会を開催する場合、各支部長さんへの旅費などの補助ができないことが、一つの大きな理由であり、実施できないのが現状である。

#### 4. 広報活動

第 62 号、第 63 号の発行とネットワーク化の推進。

#### 5. 財政の健全化に向けて

① 各支部では、支部の活動を少しでも活性化し、本部への年会費（1 名あたり 1,500 円）の納入の呼びかけを一層進め財政の健全化を目指す。

② 各支部においては、若手教員など会員の加入促進の工夫に努めて、支部の活性化を図るため、できるところから Zoom 配信等を活用し、情報交換会に取り組む。

#### 6. 会員の拡大

同窓の教員に会報を送付し、オンラインなどを用いた会員の交流を広げ、会員の拡大を図る。

#### 7. 大学との協力促進

① 教員希望学生への指導、採用試験等の情報提供については従来通り実施する。

② 東京理科大学維持拡充資金（第二期）事業への協力。

③ 大学の学生募集の協力。

ア. 高大連携を含み学生募集広報に協力する。

④ 公立学校第二次選考試験及び私学採用試験対策講座等への面接指導に協力。

⑤ ホームカミングデー運営への協力 10 月 29 日（日）：対面方式の予定。

⑥ 「坊っちゃん科学賞」の審査・発表会への協力（優秀賞校 5 校は対面方式で計画し、当日、参加希望高校はオンラインで参加できるように計画し実施する。11 月 12 日（日））

#### 8. 新規採用教員予定者激励会及びプレ教員講座

激励会はコロナ感染の様子を見て判断する。なお、大学主催のプレ教員講座は、大学の方で Zoom によるライブ配信を準備いただき、教育会のメンバーが見学できるように配慮を依頼する。

#### 9. 若手教員ネットワークの継続化

Zoom 配信による幹事会を継続化し実践する。ホームカミングデー 10/29（日）を活用し、「第 3 回懇談会」を実施する。大学の方針の 1 つ高大連携の活動に寄与できるように努力する。

## 総会 総括

令和 5 年度理窓教育会総会は、昨年度と同様「書面総会」の方式をとらせていただきました。従いまして、議案に対するアンケート形式を採り、全国支部長の皆様の意向を集約させていただきました。

### ◎ 集約の結果

回答のあった支部数 19 (昨年度 18)

1号議案 賛成 19 反対 0 白票 0

2号議案 賛成 19 反対 0 白票 0

3号議案 賛成 19 反対 0 白票 0

4号議案 賛成 19 反対 0 白票 0

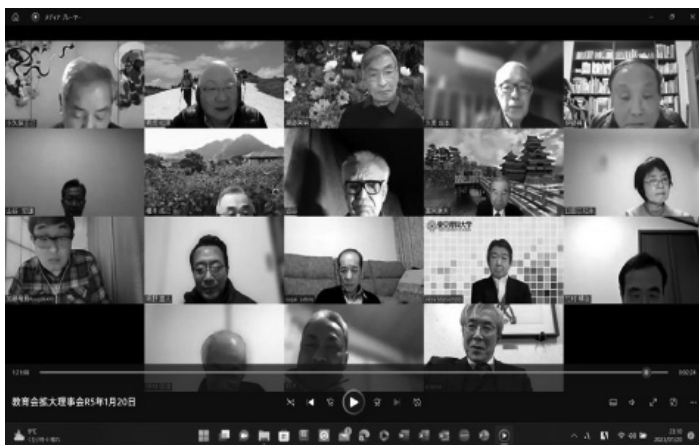
① 議案に反対する意見はありません。

② 以上、支部からの回答を吟味しまして、各議案のすべてをご承認いただいたことにさせていただきます。

以上、令和 5 年度総会は、各支部長等皆様のご協力により、無事終了させていただくことができました。皆様方のご理解とご協力を厚くお礼申し上げます。

ご意見等のあった支部数 0

※いただいたご意見等は 10 月 13 日の定例理事会で検討をする予定です。



(理窓教育会拡大理事会 zoom 会議 050122)

## 管理職への昇格

令和 5 年度の人事異動で、多くの同窓生が管理職に昇任されました。心からお祝い申し上げます。

【秋田県】

金子 淳 平 1 理工数 県立横手高副校長

【静岡県】

磯部 正之平 3 理化 県立浜松江之島高校長

【山梨県】

清水 健 平 3 理二数 笛吹市立春日居中学校長

樋口 友喜平 3 理二数 笛吹市立一宮中学校長

【大分県】

長野雄一郎 平 8 理二物 別府市立東山小中学校頭

以上、名簿到着の都道府県の昇任者のみ掲載です。

## 理窓会 支部長会

理窓会副会長 松原 秀成 (45 理・物)

理窓会全国支部長会が 6 月 25 日 (日) 午前 10 時より神楽坂校舎 1 号館 17 階大会議室で行われた。昨年度は、コロナ感染の関係もあり対面で参加された支部長は 32 支部であったが今年度は 38 支部と増加した。zoom 参加支部長は 7 名、そして、海外支部からは Zoom で 7 名の支部長が参加した。

やはり対面での支部長会は、活気があり盛会でした。特に、海外支部においては、欧州支部の設立を目指していることが発表された。

進行は佐野副会長が務めた。冒頭の増淵忠行会長の挨拶では、厳しいコロナ禍を乗り越えてきた理窓会運営についてこの 4 年間の振り返りながら理窓会活動の動きを述べられた。また、今回も名誉会長の山田義幸氏と顧問の石神一郎氏が同席された。

今年度の支部長会の協議事項は『①ブロック会議の成果と今後の課題について②海外支部の現状報告について③ホームカミングデー

への支部の参加について④理窓会のダイバーシティ推進について⑤旅費規程の改正について』であった。その後に意見交換会として、**①**「女性および若手（特に 30 代～40 代）の参加促進」について**②**その他（情報交換など）について討論された。特に**①**に関しては、神奈川支部が積極的に支部組織をあげてこのテーマに取り組んでいる実践的な報告があった。そして、各地区支部長からは首都圏支部と違って地方支部では理窓会会員が少ないケースがあり、その中で創意・工夫を行いながら頑張っておられる事例も紹介された。今後も各支部の取り組みに学びながら理窓会の活性化に結び付けられるよう**①**のテーマを意識しながら取り組むようまとめられた。

本年度 5 月 8 日「新型コロナウイルス感染症」が法的に 2 類から第 5 類へと緩和されたことを受け、各地区における総会が対面あるいはハイブリッドで開催されるケースが増えており理窓会としても組織の活性化に繋がるよう支援体制を取っていくとのまとめがなされた。

最後に、今年度も海外支部が参加できるようさらなる実践化を図りながら推進することを確認し、支部長会が終了した。

### 理窓会 代議員総会に参加して 理窓会代議員 並木 正(55 理・物)

令和 5 年 6 月 25 日に 13 時から代議員総会がありました。支部長は代理や Zoom 参加を含めて 34 名が参加していました。どこの支部も若手や女性が入らないということを嘆いていて、いくつかの支部で若手や女性が入ってきた支部のやり方をぜひ聞きたいということで、若手が来そうなメニューを支部総会で用意するなどしているという情報交換を行っていました。女性が入っている支部では、女性の会を作っていて、その参加が増えているということでした。

午後 1 時から代議員総会が 1 号館 17 階の記念講堂で行われました。冒頭、濱本隆之理事長からこれからの理大の在り方についてお

話がありました。理科大が文部科学省の国際卓越大学に応募していた 10 校に入っていたが、選ばれた 3 校には入らなかったというような話は一切ありませんでした。総議員数 193 名で、議場出席代議員 117 名、書面での意志表示による出席代議員 67 名で、欠席の代議員はわずか 9 名でした。いろいろと細かい質問もでしたが、4 件の議決議案はすべて 181 名の賛成をもって可決しました。議決事項 1 は「2022 年度理窓会会務報告について」です。議決事項 2 は「2022 年度理窓会収支決算ならびに監査報告について」です。議決事項 3 は「2023 年度理窓会事業計画（案）について」です。議決事項 4 は「2023 年度理窓会予算（案）について」です。

この後、コロナ禍明けでもあり、久しぶりに懇親会が開かれました。場所は研究社英語センタービル地下 2 階で、濱本隆之理事長、石川正俊学長、時田巖一郎こうよう会会長、酒井陽太維持会会長の来賓の方々も参加されて、懇親を深めました。

### 令和 5 年度 《第 14 回》 「坊っちゃん科学賞研究論文 コンテスト」について 実行委員長 松原 秀成(45 理・物)

理窓教育会の先生方、本コンテストの活動に際して日頃よりご支援を頂きありがとうございます。特に、分野別審査会において 48



名の教育会の先生方に、200 件を超える全国高校生達の研究論文審査を行って頂いており

ます。先生方のお陰で本コンテストが現在まで継続化が図れています。心から感謝を申し上げます。

さて、国は令和 5 年 5 月 8 日より新型コロナ感染を 2 類から第 5 類へと変更し緩和されました。それを受け本年度「第 14 回坊っちゃん科学賞」の開催方法を次のように変更しました。

#### 【開催方法】

○各分野 5 校の代表の高校生による対面発表会とする。

○その他、応募校の先生方や高校生の皆さんには、5 校の発表会を Zoom ウェビナーでライブ配信する。さらに、今回も「動画」を制作し理窓会ホームページに 12 月中旬を目途に公開する。

#### 【開催期日・時間・会場】

○令和 5 年 11 月 12 日（日）午後 1 時開始

○東京理科大学 2 号館 211 教室（階段教室）

なお、次年度（令和 6 年）は、できれば本コンテストをコロナ感染前に戻し参加校全ての希望者が本発表を見学できるようにしていきたいと思ひます。

しかしながら、生徒さんの健康安全を第一に考えるとともに審査委員の先生方の健康面を鑑み、慎重に判断して参りたいと思ひます。

さて、本コンテストは第 14 回目を迎えますが、審査委員長秋山仁先生をはじめ 11 名の総合審査委員の理科大の先生方にご指導をいただいております。改めまして、秋山先生はじめ諸先生方のご指導に深く感謝を申し上げます。

高校生の皆さんの研究論文は、内容・方法などが年々レベルアップされており審査においてもご苦労があるようです。それは、昨年 13 回コンテストで石川正俊学長先生（昨年度は、本コンテストを開会から最後までご出席をいただきました）が発表後のご挨拶の中で次のようにご挨拶されたことから伺えます。それは次のようなコメントです。「各校、どの研究論文も大変質の高い内容でした。皆さんが熱心に研究に取り組んだ成果

が現れており感心しました。大学の総合審査の先生方がこれから審査をするそうですが、ゴッホとレオナルド・ダビンチの絵画でどちらが良いかを決めるのと同じように大変だろうなと思ひます」などと話されました。

秋山審査委員長先生もこのことを講評の中でお話をされるほど見応えのある代表校 5 校の発表会であったと思ひます。

今後も全国高校生の皆さんの積極的な本コンテストへの参加を期待したいと思ひます。

結びに、現在まで大学から総合審査委員として 13 年間ご指導を頂いた児島紘先生は、14 回コンテストからはご勇退されることになりました。長年にわたりご指導を賜りましたことを心から感謝致しております。ありがとうございました。

そして、教育会の皆様には、本会報などを通して第 14 回発表会のご報告をさせていただければと思ひます。教育会の皆様におかれましては、今後とも「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」に、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 理窓会 東京支部総会報告 副支部長 廣瀬 和昭(48 理・数)

コロナ感染拡大が落ち着き経済活動も活発になってきたので、令和 5 年度の理窓会東京支部第 21 回総会を 5 月 28 日（日）13 時 30 分より森戸記念館第一フォーラムにて開催しました。天気にも恵まれてズームを利用したハイブリッドな企画で多くの参加者を迎えることができました。

まず、事務局総合司会今村彰啓のもと、開会挨拶を支部長増田律子が行った。高齢者の多い会なのでコロナ禍での健康に留意されながら活躍されていることをねぎらう暖かい言葉が伝わってきた。議事に入り増田支部長を司会に選任して令和 4 年度活動報告（廣瀬副支部長）・収支決算（副支部長島崎益男）・監査報告（長峰博明、妙円菌勉）、令和 5 年

度活動計画・予算が可決されました。

次に理窓教育会東京支部と共催して報告会に入り、①東京理科大学の現状と展望について東京理科大学佐々木健夫担当理事、②ビデオメッセージにて石川正俊学長、③維持会報告を酒井陽太会長、④理窓会の活動報告を山崎晃弘副会長よりいただきました。

15 時過ぎから半谷誠一郎副会長の司会で講演会がはじまりました。講師は武藤順子先生（薬学部薬学科卒・薬楽師・体育科学博士）に「うつになりにくい生き方の模索」～血糖値の安定、鉄分の補充、人とつながる迷走神経、有酸素運動など、健全なメンタルの維持によりうつになりにくい生き方の模索について～ご講演いただきました。印象的だったのはブリキのおもちゃコレクターとしてご活躍の北原照久さんの良い言葉を選ぶ生活スタイルによって穏やかな気分になれることを話してくださいました。武藤先生は運動と脳とキレイを科学する女性研究者としてご活躍中です。

森戸記念館の会議室にて懇親会を植木キク子前支部長の乾杯で4年ぶり開催することができました。1都3県の理窓会支部の皆様方も、どのように会の活性化に貢献できるかを確認しあい懇親を深めることができたことは大きな収穫でした。

### 若手教員ネットワークの会

令和5年3月26日（日）午後6時～「若手教員ネットワークの会」Zoom 幹事会。若手の会幹事10名。教育会11名。合計21名。



## 新任教員の抱負

### 関東学院中学校高等学校

#### 教諭 上木 洸之介（令3理・数）

横浜の丘の上に位置する関東学院中学校高等学校、勤務校でありながら私の母校でもあります。周囲の先生の中には、私が生徒だったころにお世話になった先生が多くいらっしゃいます。そんな私の教員生活は2021年4月から始まり、もう3年目になりました。

初年度は中学2年生の学年担当、そして3クラスの教科担任でした。4月1日の勤務開始から最初の授業を終えるまで、大きな緊張感に包まれていたことは今でも覚えています。私の数学の授業では、数学への親しみづらさを解消したいと思い、数学の歴史のエピソードを披露しながらみんなで楽しむことをテーマに展開していました。最初のうちは、分かってもらえるだろうと思っていた説明に疑問符を浮かべられ、生徒に聞きなおされることもしばしばありました。改めて、教材だけでなく生徒一人一人を思い浮かべながら予習していくことの重要性を感じ、それは今も続いています。また、県の数学部会にも顔を出させていただき、他校の先生とのつながりを持ちながら数学に向き合う時間を多く作ることができました。

2年目は持ち上がった中学3年生のクラス担任でした。初のクラス担任は、生徒指導の難しさに直面しました。時に厳しく指導することが必要なのですが、生徒の考えにも共感するところが多く毅然とした指導ができなかったように思います。身体的にも精神的にも疲労が溜まり大変でしたが、向き合い続けたことが生徒一人一人に寄り添う姿勢をより強くしてくれたのだらうと感じています。

現在3年目、同じ学年を持ちあがり続けて高校1年生、選抜クラスの担任を任せていただきました。中学校から高校に変わり、進路指導の機会が大変多くなりました。自身も学ぶことがとても多く、経験のある先生に助言



を求めながら精一杯取り組んでいます。

振り返ってみると、毎年着実に成長できているのかと思いつながりながらも、まだまだ勉強不足な点も多いと感じています。3年目なので当然なのでしょうが、そろそろ胸を張って1人前の教員だと言えるようにもっと努力を積み重ねていきたいと思っています。

## 千葉県立船橋高等学校

### 教諭 中村 瑞季（令4理・数）

教員としての生活が始まって早くも2年目になりました。本校に赴任が決まった時は「私にできることなんてあるのだろうか」と不安の方が大きかったです。昨年度は周りの先生方に付いていくのが必死で、気がついたら1年があつという間に過ぎてしまいました。今年度は1年生の担任、部活動の主顧問、校務分掌の仕事等、多くのことを任せていただき忙しくも充実した日々を送っています。

私は理科大に在籍していた頃から、「学び続ける教師でありたい」と思っていました。2年目となった今、改めてその必要性を実感しています。教科指導では昨年度と同じく数学Iと数学Aを指導していますが、生徒が変われば反応も理解度も違うと実感しました。また、数学の内容も、それが今後どうつながっていくのか、受験ではどう問われるのか、まだまだ掴みきれないことの方が多いと授業や教材研究をしながら感じる日々です。部活動では何を改善すればプレーが良くなるのか、それをどう指導すればいいのか、本やインターネットで調べ試行錯誤しながら指導をしているのが現状です。他にも進路指導、生徒指導、一人一台端末の活用…挙げればきりがありません。周りの先生方と自分を比べては「自分はこれだけしかできない」と肩を落とすこともあります。あきらめずに学んでいくしかないと思っています。

今年は担任や部活動の主顧問として生徒と関わる場面が大分増えました。そういう立場になると、「文化祭はトラブルなく終わるだろうか」「レギュラーメンバーはこれで良か

ただだろうか」など、正直、悩むことや心配事は増えました。でも、その分生徒の楽しそうな表情や成長した姿をより近くで見られるようになり、やりがいを感じる場面も増えました。

まだまだうまくいかないことの方が多く、教師としては未熟ですが、これからも生徒のために何ができるか考え、学び続ける教師でありたいと思っています。

## 東京都立野津田高等学校

### 教諭 山本 桜路（令4理・化）

令和4年4月に東京都立野津田高校に赴任し、今年で2年目になります。野津田高校は普通科のほか、福祉科や体育科をもつ特色ある学校で、卒業生の進路も大学・短大、専門学校、就職と様々です。一般受験をする生徒はほとんどいません。私はこのような学校で、主に高校2年生の化学基礎の授業を担当するほか、去年に引き続き進路指導部として生徒の進路指導に携わっております。進路指導部や部活動の顧問としての課題や目標も多くありますが、今回は教科指導について記述させていただきます。

生徒はおもしろいもの・つまらないものそれぞれに対する反応がとても正直で、その正直さに私自身救われたり、落ち込んだりして毎日過ごしています。去年1年間は生徒がとにかく楽しく学習に取り組むことができるよう、実験を含め様々な仕掛けを考えたり、授業構成を工夫したりしてきました。苦勞することも多いですが、生徒が何を「楽しい」と感じるのか、これまでの授業や日々の生徒とのやりとりの中で少しずつ掴めてきた実感があります。生徒が授業後にも、楽しそうに授業に関する活動を続けているような場面を見ると嬉しく思います。今は「授業の50分間の中で生徒がどれだけ頭を働かされるか」ということを意識して日々内容を改善しています。生徒が頭を働かせるきっかけとして「楽しい」ことは必要だと考えますが、その内容をどのように整理させ、そこから何を考えさせるかという点において私自身まだまだ

課題を感じております。授業を担当している 2 年生については、今年度から一人一台端末が配布されています。授業の中でどのように活用できるか模索中ですが、効果的な場面を見つけて積極的に活用しながら、生徒が物事を思考する時間を少しでも増やせるよう授業改善をしていきたいです。

## 神奈川県立秦野高等学校

### 教諭 郷上 柚果（令 4 理・数）

教員採用試験の合格通知を頂いてからあつという間に初任期間が終わり、2 年目を迎えました。今年度は 1 学年の担任と昨年度に引き続き吹奏楽部の顧問、ICT 関係の分掌を任せていただいております。初任期間は日々知らないことに出会いながら毎日を乗り切ることと精一杯でした。そのような中で迎えた 2 年目ではありますが、初任期間を経て感じた「これから先の教員人生で絶対に大切にしたいこと」をここで書かせていただきたいと思ひます。

何よりも私が大切にしたいものは「授業」です。どのような状況でもその場の自分のできる 100% でこれまで授業を行ってきました。もちろん入念に準備をして自分なりの 100% で臨んでも、授業のテンポ感や教え方等は先輩方の授業と比べるとまだまだです。それでも、現時点の自分のできることをして「自分が一生懸命に授業をしていること」や「その時間に何が出来るようになってほしいか」を伝えることを願って取り組みました。満点の授業でなくともその時の自分のできる精一杯の授業を一生懸命やる。このことはこれからも続けていけるよう努力します。

次に、人との関わりです。学校はすべてのことにおいてその裏に多くの人携わっていることを初任期間に身をもって知りました。自分がする授業や HR 経営においても生徒の支えや先輩の助言があり、学校行事には教員と生徒全員の協力があります。その他、当たり前のように過ぎる日々は人同士の助け合いで成り立っていました。だからこそ、生徒に対して同僚に対しても誠意を持ち、自分が

していただいたように気遣いや助け合いの気持ちを忘れずにしていきたいです。

2 年目を迎えて、昨年よりも考えることもやらなければならないことも増えました。日々生徒や同僚などいろいろな人に支えられながらですが過ごしています。これからは、色々な人に助けていただきながらになると思ひますが自分にできることをしていきたいです。

## さいたま市立宮前中学校

### 教諭 伊豆田 百々（令 4 理・化）

令和 3 年度理学部第二部化学科卒業生の伊豆田百々と申します。教壇に立ち始めて早 1 年半が過ぎ、現在、私はさいたま市の教員として働いています。今年度は 2 学年の担任を受け持つことになりました。生徒指導や教育相談、給食・清掃指導など、授業以外にも様々な経験をさせていただいており、毎日充実した日々です。私の目指す担任像や授業への思いについて述べさせていただきます。

勤務させていただいている学校は中規模の学校で、基本的に 1 教科につき 1 人で学年の授業を担当します。空き時間は多少ありますが、生徒が毎日時間割や日記を書くやりとり帳のチェックや、不登校生徒の保護者対応で、授業準備はできません。しかし、担任を受け持ったことで、授業以外から生徒を知る場面が増え、昨年度見えなかった視点で生徒を見ることができていると感じています。特に、思春期を迎えた中学 2 年生は勉強や部活動での影響もありますが、家庭での環境も大きく影響していることに気づかされました。子供たちと過ごせる時間に限りはありますが、日々のやりとり帳や対話を通して小さな異変に気づいてあげなければならないと感じています。そして、声をかけ、そっと背中を押してあげられるような担任を目指して今後も努力していきたいと思ひます。

授業では、納得いく授業ができていないのが現状です。まだ、自分の中に内容を落とし込むまでに時間がかかってしまいます。しかし、子供たちに理科の楽しさや面白さを実感

してもらいたい思いは教員になってから変わりません。忙しい日々でも、実験や観察を積極的に取り入れ、理科の楽しさや面白さを実感してもらえるように、今後も授業を行っていきたいと思います。

「何事も準備が成功の鍵を握る」この言葉は同僚が去年私にかけてくださった言葉です。経験が不足しているからこそ、日々勉強を大切にして、その都度最善を尽くせるように、これからも精進していきたいと思います。

**進路指導主事の職務を通して  
～一人一人に寄り添った指導を～  
愛知県一宮市立今伊勢中学校教諭  
中谷 智 (平 23 理・数理情報)**



私は、昨年度から進路指導主事の仕事を任せていただいております、今年で2年目になります。進路指導主事は、学校教育法施行規則によると「1、

中学校は、進路指導主事を置くものとする。2、主幹教諭を置くときは、進路指導主事を置かないことができる。3、校長の監督を受け、生徒の職業選択の指導その他の進路の指導に関する事項をつかさどり、当該事項において連絡、調整及び指導、助言にあたる」とされています。

私は、大学卒業後、東京都で採用され、足立区で5年、その後愛知県に移り小牧市で3年勤務したのち、一宮市に異動し現勤務校に赴任し今年で5年目になります。任されたときに、どうして自分が？という気持ちもありましたが、愛知県の人事異動は、同一自治体内での異動がほとんどであり、他県もふくめて複数の自治体での勤務経験あるので、違った見方やとらえ方で、進路指導を進めていくことができるという点で、この役割を与えていただいたと思っています。

昨年度より、愛知県公立高等学校入学者選

抜が大きく変わりました。一般選抜では、学力検査の回数が2回から1回になったり、面接の実施が高校ごとに決定になったりしました。また、新たに特色選抜が導入されました。新しく発表されることが多く、県教委の発表や、県の説明会の内容を学年でこまめに共有しました。本校は1学年6学級から7学級の比較的大規模な学校です。信頼される進路指導を行うために学年で、指導のラインを揃えていくことは重要です。私より経験年数の少ない先生が多くなり、経験の少ない担任が自信をもって、生徒や保護者と進路面談を行うことができるよう適宜助言するよう心掛けています。

進路面談を行う上で、私が担任の先生方に大切にしてほしいと思っていることは「生徒の気持ちを丁寧に聴きとること」です。学力で進路を決めるのではなく、進みたい道から進路を決める。そのためには、生徒が自分の考えを整理したり、自分への理解を深めたりすることが大切です。もちろん、生徒一人一人への生徒理解に基づいて、生徒の特性を伝えたり、生徒にあった進路先を情報提供したりすることも必要です。

最後に、中学校における進路指導が出口指導になることなく、キャリア教育の視点で、生徒一人一人のキャリアの発達を促すことができるよう今後も精進していきたいと思います。(若手教員ネットワークの会)

**生徒との信頼関係づくり  
北海道本別高等学校 教諭  
隅田 幸恵 (令 2 理・数 2)**

昨年度、新採用で本別高校に着任し、現在は数学と情報を担当しています。本校の全校生徒は80名程度で、教員も少なく大変なことばかりですが、全校生徒一人一人と関わることができるなど小規模校ならではの経験をすることができ、とても充実した教員生活を送っています。

さて、教員 1 年目を振り返ると「生徒との信頼関係づくり」を一番頑張ったと感じています。「生徒との信頼関係を築くためには生徒理解をすること。生徒理解をするためには、まずは生徒とのコミュニケーションから」ということをよく耳にします。この 1 年間、休み時間の雑談、



放課後に残って勉強している生徒に付き添ったり、部活の帰りにひたすら生徒の悩みを聞いたり、学年関係なくひたすら生徒と話してきました。すると、だんだんその生徒のことがわかり、その生徒に合った会話をすることができるようになったほか、生徒の方から相談を受けることが徐々に増えてきました。時にはいじめに繋がる案件を早期に発見し、迅速な対応に繋がったこともありました。生徒との年齢が近い分、他の先生よりも相談しやすい部分もあるかと思いますが、普段の生徒とのコミュニケーションが生きたと感じています。

フレッシュさを活かした一方で、生徒の痛みを私も感じながら話を聞くことが多く、たまに私自身も気持ちが沈んでしまうこともありました。そんなときに、いつも教頭やベテランの先生方が一緒に対応方法を考えるなど、たくさん相談に乗ってくださり、気持ちが楽になるだけでなく勉強になることがとても多かったです。改めてチームティーチングの大切さを学ぶことができました。

教員 2 年目も先輩からアドバイスをいただきながら、さらに生徒に寄り添える教員を目指していきたいと思います。また、今年度から数学科が一人となり、苦戦する場面が多々ありますが、他校の先生から学び、教科指導もさらにレベルアップできるよう精進していきたいと思います。

(若手教員ネットワークの会)

## 情報教育の充実

全国高等学校情報教育研究会会長

福原 利信 (平 2 理工・数)

私は平成 2 年に東京理科大学を卒業し、都立高校数学科教員として採用されました。その後、平成 12 年から 3 年間実施された、新教科「情報」現職教員等講習会の講師を務めさせていただく機会をいただき、自身も「情報」の免許を取得し平成 15 年より情報科教員として都立高校に奉職してきました。平成 24 年からは東京都教育員会指導主事、副校長などを経て、令和 3 年より現職として勤務をしております。新教科「情報」が始まることから研究会活動にも加わり、校長職着任とともに会長として全国大会の運営にも関わっています。

さて、「Society5.0」「GIGA スクール構想」など私たちを取り巻く環境はデジタル技術なしには語れない世の中になってきました。そして、昨年からは始まった高等学校新学習指導要領では、これまで、「社会と情報」

「情報の科学」の 2 科目の中から選択必修修だったものが、「情報 I」が高校生の必修修科目となりました。内容も、「情報社会の問題解決、コミュニケーションと情報デザイン、コンピュータとプログラミング、情報通信ネットワークとデータの活用」とこれまで以上に情報の科学的な理解に軸足が置かれています。また、令和 7 年度の大学入学共通テストで新たに「情報」の試験が追加され、単独の時間帯に実施されることが決定しています。国大協も 6 教科 8 科目を標準とする旨を通知済みで、大学入試も大きく変わります。

この様な、大きな変化が起きている時に、全国高等学校情報教育研究会の会長として、全国の先生方と今後の情報教育について語れることは大変やりがいがあり、嬉しいことと思っています。東京理科大学も、大学の DX に関する取り組みなど多くの改革が行われており、心強く思っています。今後は大学の社会貢献にもこれまで以上にご尽力いただき、

本学を卒業し教員として勤務する者のリカレント教育や高等学校の教員が集う研究会への支援など、多くの事を期待しています。本学の益々の発展が、日本の教育の発展につながると確信しています。これからもよろしくお願ひいたします。

(東京都立田園調布高等学校長)

#### 同窓の活躍

**公民館を拠点とした  
交流活動によるまちづくり**  
仁科 康 (55理・応数)

昭和 55 年 3 月東京理科大学理学部応用数学科を卒業。岡山県の中学校教員として赴任し、40 数年間、生徒・同僚・保護者・地域住民の力に支えられながら充実した教員生活を送ることができたことに感謝している。その最後の勤務先であった倉敷高等学校の商業科の探究活動が私の第二の人生にヒントを与えてくれた。

倉敷駅前の商店街に約 10 年間シャッターを閉じたままの商店がある。以前、私の母が商売をしていた店であるが、倉敷高の先生から学習活動の場として商店を貸してほしいという依頼をしばしば受けていた。このことが私の頭から離れないまま、店を片付けていた時、「もしこの商店が高校生や大学生による探究活動の拠点になれば、若者と地域住民、小中学生とのふれあいの場ができ、商店街の活性化にもつながっていく。よし、これだ」とひらめいた。その後、数回高校生・大学生が、商店を利用してSDGsの活動発表やものづくりのワークショップをしたことで、商店街の人々が、「若い人の姿が見え、声が聞こえてきた」と大変喜んでくれたことも私の思いを後押ししてくれた。徐々に商店活用の構想が見えてくるとともに明治時代に建てられた古い商店の改装にも着手した。さらに、いろいろな方に使ってもらうために、倉敷市内の高校・大学に出向き、校長等に開店の目的や利用方法・ルール等について説明して回

った。

その開店準備をしていた矢先に私にとって衝撃的なことが起きた。「今までの経験をもとに、倉敷市の教育長として教育の諸課題解決のために力を貸してほしい」まさに寝耳に水の驚きであった。まちづくりの思いもあり、何度かお断りしたものの、最後は断り切れず、儂くも商店活用の夢は消えてしまったのである。

教育長を引き受けはしたものの、「さて、自分に何ができるか」と考えていた際、「待てよ。子どもからお年寄までのふれあいの場は、自分の店以外でも実現できるのでは。さらにいろいろな地域でできるかもしれない」と消えかかっていた夢が再び見え始めてきた。

『だれでも出入りでき、利用でき、学習できる』『市内のあらゆる地区にある』『探究活動等の拠点になることができる』このような場所が果たしてあるのだろうかと考え込んでいた時、「そうだ、公民館だ。ここならできるかもしれない」と意欲が再燃。この公民館を子どもからお年寄りまでが利用し、世代を超えた交流活動をする拠点にすることができれば、人と人との繋がりから絆ができ、家庭教育、学校教育、社会教育等に大きな効果をもたらすのではないか。目が覚めたように、自分の夢が再びはっきり見えてきた。

先日、ある公民館で高校生が「海のプラスチックごみの問題」を調査し、その解決に向けての取り組みを発表している様子を見学した。「海ごみの多くは川から流れていく」ことを訴え、「まず自分たちの地域からごみを無くしていこう。その活動を子どもから大人までの地域住民で実践しよう」という提案であった。高校の顧問の先生に「なぜ、公民館で問題提起をしたのですか」と尋ねると「いくら全国のボランティア・アワードで発表し、賞をもらっても地元の人には伝わらない。だから、地元の公民館で発表した方がより実効性があると思った」と言われ、「御意！」。

この公民館を拠点とした子どもからお年寄

りまでの交流活動の推進について、市内の校長・園長会、市議会等でも公表した。すると多くの方から「高校生が小学生に勉強を教えたがっている」「学校に足が向かない生徒の居場所づくりになるかも」「もの作りもできるのでは」など様々なアイデアをもらった。

「教える」「教わる」を通して、お互いに喜びを得ることができれば、そこに人と人との繋がりが生じ、お互いへの思いやりの心が育んでいく。何より、地域住民が温かい気持ちで子どもたちを見守ってくれる、そのような公民館を拠点としたまちづくりに貢献できればと思っている。

(岡山県倉敷市教育委員会教育長)

## 大学との連携～教職に向けて～

松本 明(57 理・数)

ある高校の教頭先生の出身大学では、次のようなお話が出ているそうです。「東京理科大学では教員養成がしっかりと行なわれている。優秀な教員を育てて全国に輩出し、その先生方の教え子たちがまた理科大を目指す。理科大の強みは、そのようなサイクルが確立しているところだ」と。

本学としましても、教員養成を重要な教育の柱の一つに掲げておりますが、近年、教員を希望する学生は減少傾向にあります。2022年度に教員免許状を取得した学生数は251名(数学科158名、理科93名)で、昨年より28名減少しました。また、教職に就いた学生数も71名(昨年は99名)に留まりました。理由はさまざまあると思いますが、教職そのものの魅力が求められていることは事実であると思います。

教職課程指導室では、教職科目の指導はもちろんのこと、支援室や就職課と連携していろいろな講座を行なっております。まず、教員採用試験対策講座としては、直前講座(4年生の春)と事前講座(3年生の秋)、2次試験対策講座(8月)、私学対策講座(1月)、春季集中講座(2月)を開講し、学生

の実践的指導力や対応力を高めております。また、各種ガイダンスも充実させ、教職を目指す学生を増やす取組を行なっております。

今後、教員人材確保の観点から、教員採用試験の早期化など教員採用の仕組み自体の変更が予想されます。教育実習の時期やあり方についても変更があるかもしれません。そのような変化に対応するため、教職ガイダンスを増設し学生に情報をいち早く提供することや、教職科目である「学校インターンシップ」を活用し学校体験の機会を増やすなどの取組を行なっているところであります。

大学との連携として、6年ぶりに「**同窓高等学校長と大学との懇談会**」を開催できたことが特筆すべき出来事であります。理窓教育会にも運営にご協力をいただきました。内容は、本学の学部学科再編や入試の変更点、教職課程の現状等の情報提供、及び今後の高大連携に係る意見交換会でした。全国から34名の同窓高等学校長が出席され、6グループに分かれて熱心な意見交換が行われました。参加された校長先生からは「大学の現状がよく分かった」、「大学と何かしらの連携が図れると嬉しい」などといった多くのご意見をいただきました。

今後も、大学や理窓教育会をはじめ様々な連携を図りながら教職課程を充実させ、学生の指導に当たってまいりますので、ご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

(教職課程指導室 嘱託専門員)



SSH 生徒研究発表会の化学分野の講評 050809~10

# 事務局より

## 1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 6 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

### 書面での連絡先

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1  
PORTA 神楽坂 6F 理窓会事務所内  
東京理科大学理窓教育会 宛

## 2 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 高橋 伯也 (編集担当)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール [takahaku@rs.tus.ac.jp](mailto:takahaku@rs.tus.ac.jp)

## 3 理窓教育会ホームページ

「理窓教育会」と入力すると、開きます。

「東京理科大学理窓会」のホームページの中に「理窓教育会」のものがああります。

ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.com/educ/>

### (編集後記) 第 62 号をお届けいたします。

お忙しい中、紙面総会等でご協力いただいた支部長さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

本号は紙面総会の特集です。ご回答と共に管理職への昇格についても数多くの情報をいただきました。支部長の皆様のご協力に感謝いたします。

また、理窓会副会長の松原秀成さんに理窓会関連の記事、そして坊っちゃん科学賞

研究論文コンテストなどについて書いていただきました。

さらにお忙しい中、5 名の方から、新任教員の抱負をお寄せいただきました。上木 洸之介さん、中村瑞季さん、山本桜路さん、郷上柚果さん、伊豆田百々さん、コロナ禍の中でのご執筆有難うございました。改めて、全国の新任教員の皆様のご活躍を祈念いたします。

また、若手教員ネットワークのお二人、愛知県一宮市立今伊勢中学校の中谷智さんと北海道本別高等学校の隅田幸恵さんにレポートしていただきました。

そして、同窓の活躍コーナーでは岡山県倉敷市教育委員会教育長の仁科康さんに「公民館を拠点とした交流活動によるまちづくり」を書いていただきました。在職中の取組みがいろいろと繋がっていて素晴らしいと思います。

さらに、いま注目を浴びている「情報教育の充実」について、全国高等学校情報教育研究会会長の福原利信さんに書いていただきました。福原さんには、教育会報の編集委員長としても大変お世話になっております。

会員増強が大きな課題です。教育会報は皆様の会費で作られております。未加入の同窓がおられましたら、ぜひ入会を勧めてください。コロナ禍で対面の行事や会議・親睦会などが思うようにできず苦戦しております。そのためにも、理窓教育会報をこれからますます充実できるよう、フレッシュな気持ちで全国の皆様と取り組んでいきたいと考えます。

支部のニュース等がありましたらお知らせください。ご質問やご意見等がありましたら、支部長等の連絡窓口メールに遠慮なくご連絡ください。(小久保正己)

## 4 会費納入状況

以下の表の通りです。令和 5 年度は 8 月 31 日現在の納入者数です。ゆうちょ銀行で払込む際、窓口 203 円、ATM152 円が徴収されております。今後の会費払込みにつきましては、できるだけ ATM で行っていただきますようお願いいたします。

各支部の活動時に会費を集金した場合、納入者の住所・氏名の一覧表をメールで会計担当まで送っていただくと、会報をご自宅にお届けすることができます。会員の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

なお、郵便払込取扱票の口座番号などは、次の通りです。

(口座番号) 00160-9-715349 (加入者名) 東京理科大学理窓教育会

(会計担当理事 57 理・数 臼田 三知永 usuda.m@rs.tus.ac.jp )

## 理窓教育会 支部別会費納入数

県名	2年度	3年度	4年度	5年度	県名	2年度	3年度	4年度	5年度
北海道	1				滋賀				
青森	1				京都				
岩手	4	5	2	3	大阪				
宮城	3	5	2	2	兵庫			1	
秋田	24	15	16	16	奈良	1	1	1	
山形	1	1	1	1	和歌山				
福島	1	1	1	1	鳥取	1		1	
茨城	6	9	6	4	島根				
栃木	1	1	1		岡山	1	2	7	1
群馬	3	5	3	1	広島	26	37	37	2
埼玉	23	27	8	7	山口	2	2		1
千葉	1	13	4	20	徳島	1	1	1	1
東京	38	50	42	43	香川				
神奈川	8	10	10	8	愛媛				
山梨	1	1	1	1	高知	1	1	1	1
長野	1				福岡				
岐阜				1	佐賀	1	1	1	
静岡	10	6	2	4	長崎				
愛知	1	1	1	1	熊本				
三重	1	1	1	1	大分				
新潟	2	2	2	2	宮崎				
富山	2	1		1	鹿児島	1		1	1
石川					沖縄				
福井				2	合計	168	199	154	126

令和5年度 8月31日 現在